

平成30年度城東区区政会議 こども・教育部会（12月）

日時 平成30年12月13日

開会 19時00分

○萩原部会長 それでは定刻になりましたので、ただ今から平成30年度城東区区政会議こども・教育部会12月部会を開会します。

まず最初に、事務局より事務連絡があるようですので、事務局よりよろしくお願いいたしますします。

○縣総務課長 皆さん、こんばんは。総務課長の縣でございます。開会に当たりまして、事務連絡をさせていただきます。

最初に、本日の手話通訳の方を紹介します。手話通訳を担当するのは、「城東区手話サークルひだまり」の皆さんです。委員の皆さまにおかれましては、発言にあたり、マイクは区の職員がお持ちしますので、マイクを通して、少しゆっくりめに話していただければ幸いです。

次に、区政会議は公開の会議でございます。これまでと同様、ネットでの中継、録音、写真撮影等行いますので、ご了承ください。

続きまして、委員の皆様のご紹介ですが、委員名簿を事前にお送りしておりますので、そちらをご参照いただきたいと思います。今回より委員の変更がございましたので、ご紹介をさせていただきます。

これまで公募委員として、福里様にご参加いただいておりますが、退任されました。本日の会議から、同じく公募委員として福井様にご参加いただいております。

福井様、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、この部会では、部会長は萩原委員、副部会長は内山委員にお願いしておりますが、規約上、部会長、副部会長も自らの意見を述べるようになっており

ますので、あわせてよろしく申し上げます。

なお、部会長、副部会長におかれましては、委員として発言される場合には、発言の冒頭で、「委員として発言します」とお断りいただけたら幸いです。

次に、区役所の出席者でございますが、最初に区長の松本からご挨拶申しあげます。

○松本区長 皆様、あらためまして、こんばんは。城東区長の松本でございます。

皆様方にはお忙しい中、またお寒い中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。10月25日に開催されました区政会議の本会に引き続きまして、本日はこども・教育部会ということで、ご出席誠にありがとうございます。

本日は資料といたしまして、10月の本会の方でお示しをさせていただきました運営方針、これをバージョンアップしたものをお示しさせていただいております。

また、部会の役割でございますけれども、主にそれぞれが担当する分野、本日であれば、こどもに関すること、教育に関することにつきまして、掘り下げて意見交換を行っていただくことを目的に部会を行っておりますけれども、この間、委員の皆様の中から、会議で何を話していいのかというのが分からない、限られた時間の中、委員同士で意見交換をするべきではないのかといったご意見をちょうだいしてまいりました。ご指摘のとおりでございます。それぞれのテーマにつきまして、委員の皆様で掘り下げて議論をいただき、それを踏まえて、区としてどのように対応していくのかということを検討してまいりたいと考えておりますので、このことにつきましては、後ほどあらためて趣旨の説明をさせていただきますけれども、今回からあらかじめ議論をしたいテーマのご希望をお聞かせいただきました上で、ご希望が多かったテーマから順に意見交換を行っていただく形式とさせていただきます。

また、委員の皆さんに活発な意見交換を行っていただきますよう、議論を進めるにあたりまして必要な数字、データ等がありますとか、あるいは現在の状況等につきましては、ご質問をいただければ、その都度、区の方より提供させていただきます。

れども、区としての見解につきましては、その都度お答えするというのではなくて、皆様方のご議論、ご意見をお聞かせいただいた上で、本日お答えできるものにつきましては、それぞれのテーマごとの最後に、また、少々お時間をちょうだいしなければならぬものにつきましては、後日、文書にてお答えをさせていただきますので、よろしくお願いを申し上げます。

それでは、委員の皆さんの貴重なご意見をちょうだいしながら、より良い区政運営を進めてまいりたく考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願いを申し上げます。

○縣総務課長 次に、副区長の奥野でございます。

○奥野副区長 副区長の奥野です。よろしくお願いをいたします。

○縣総務課長 その他、関係課長他も出席しておりますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、本日お手元に配付させていただいております、資料を確認します。次第の下側に配布資料を記載しております。

※印がついている、別紙1および資料1～6については、事前に送付させていただいておりますが、念のため確認させていただきます。

別紙1、区政会議部会名簿です。

別紙2、本日のレイアウト図です。本日配布させていただいております。

資料1、皆様にお願ひした事前アンケートです。

資料2、10月の区政会議本会での意見・質問への区の考え方です。

資料3、運営方針検討版 Ver. 2です。

資料4、Ver. 1から2への修正内容の一覧表です。

資料5、平成31年度予算関連の事業概要です。

資料6、10月の本会以降にいただいた質問への区の考え方です。

資料7、この間、ご協力いただきました、区政運営についての委員の皆さまからの

直接評価の集計結果です。

資料8、ご意見・ご質問シートです。以上、お揃いでしょうか。

続きまして、本日の部会の進行ですが、先ほど区長の挨拶にもありましたように、限られた時間の中で議論の活性化を図るという目的で運営方法につきまして一部見直しをさせていただきました。

具体的には、今回新たな試みということで議論すべき議題やテーマについて、事前にアンケートを実施させていただき、本日はその集約結果をもとに中心的な議題として3つのテーマを選ばせていただいております。後方のスクリーンにも映しております。

部会長の進行によりまして、3つの議題、テーマについて、それぞれテーマごとに事務局から説明を行い、その後、委員の皆様で意見交換いただきたいと思います。また、委員の皆様に活発な意見交換をいただけますように、議論を進めるにあたり必要なデータであるとか、数値等につきましては、ご質問をいただければ、区から提供させていただきますが、区としての見解につきましては、その都度お答えすることではなく、皆様方のご意見を聞かせていただいた上で、本日お答えできるものにつきましては、テーマごとの最後に、また、お時間をちょうだいする必要があることにつきましては、後日文書でお答えをさせていただきます。

また、3つのテーマについての意見交換が終了後に、3つのテーマ以外のその他のご意見についてお聞かせいただきたいと思いますと考えております。

なお、円滑な区政会議の運営という観点からは、事前に委員の皆様にも、運営方法の変更について説明をさせていただくべきであったかと思っておりますが、区といたしましても、区政会議の議論の活性化に向けまして、何かと試行錯誤という面もございまして、ご容赦をお願いします。

また、今回の運営方法の見直しについてもご意見等ございましたら、3つのテーマが終わった後、その他のご意見の中でお伺いをしたいと思っております。

それでは部会長よろしくお願ひいたします。

○萩原部会長 それでは議事に入りたいと存じます。

まず本日の進行ですが、事務局から報告がありましたように、事前アンケートで決定した3つの議題ごとに意見交換します。本日の議題はいまプロジェクターに映っている3点です。

まず、事務局から資料について総括的な説明をいただきます。その後、議題ごとに運営方針などについて事務局に説明いただき、その後、議題ごとに意見交換をお願いします。意見交換は1項目20分を目安とします。3項目の意見交換が終了しましたら、その他のご意見を頂戴する予定です。

その後、8時30分をめどに会議を進め、延長がありましても、9時には終了してまいりたいと存じますので、皆様ご協力の程よろしくお願ひ申しあげます。

それでは、議題について、事務局より説明を願ひます。

○牧企画調整担当課長代理 皆さんこんばんは。企画調整担当課長代理の牧です。

失礼しまして、座らしていただきてご説明申しあげます。

資料1につきましては、先ほど縣から説明があった通りでございます。

次に、資料2をご覧ください。「城東区区政会議本会（30年10月）での意見・質問への区の考え方」をとりまとめておりますので、ご確認ください。

次に資料3をご覧ください。前回お示ししました運営方針ver.1のバージョンアップ版の、ver.2でございます。主な変更点につきましては、資料4にあります変更点一覧にも掲載しておりますとおり、31年度予算算定額と主な増減理由と業績目標の追加、58ページに予算一覧等を追加しておりますので、ご確認よろしくお願ひいたします。

この金額ですけれども、予算の算定におきまして、城東区の案を現在大阪市の財政当局に予算要求をしております、その金額ということでご理解いただければというふうに思います。この予算につきましては、今後、来年3月の市議会の審議等を踏まえまして、確定していくという流れになります。来年開催予定の区政会議本会で予

算案を報告させていただきたいと思っところでございます。

各具体的取組の詳細については、後ほど議題毎に説明させていただきます。

資料5については、運営方針の関連資料ということで、各予算事業概要の一覧でございます。またご参照ください。

資料6については、本会以降にいただいた質問に対する区の考え方でございます。

今年起こりました地震であるとか、台風での学校の被害の状況はいかがかというご質問をちょうだいしまして、資料提供という形で記載いただいたんですけども、区としての考え方のところには被害状況をお示ししております。

その他、嶋野小学校で実施されている日本語教育の状況なども資料提供してほしいということでしたが、こちらの区としての考え方のところには、状況を確認したものを示しておりますので、こちらの方もご確認いただければと思います。

あわせて、とりまとめが遅くなりましたが、みなさんにご協力いただきました、資料7「区政運営についての委員から直接評価について（集計結果）」でございます。

詳細は割愛させていただきますが、本日の意見交換の参考にしていただければと思います。私からは以上でございます。

○萩原部会長 では、1つ目の項目、具体的取り組み3-1-1「子育て支援事業の推進」について、事務局より説明をお願いします。

○丹葉子育て教育担当課長 子育て教育担当課長の丹葉でございます。失礼して、着席させていただきます。

資料3、運営方針の25ページをご覧ください。こちらの方に「子育て支援事業の推進」ということで項目が立っておりまして、この子育て支援事業では、子育てフェスティバルをはじめ、絵本展や絵本イベント、絵本読み聞かせ会など、親子で楽しめるような様々な事業を開催しておりまして、核家族化が進む中、子育てへの不安、また、負担感を抱えておられる子育て世帯の繋がりづくりに取り組むとともに、子育て応援情報誌わくわく城東であるとか、城東区子育てマップといった子育てに関する情報発

信に取り組んでおります。特に中心事業であります子育てフェスティバルでは、今年11月に開催したんですけれども、過去最高の1,700人を超える参加者があったということで、取り組みについても非常に広がりを見せておるところだと思っております。

また、情報誌のわくわく城東につきましても、これまではそういった子育て層が利用する施設等への配架が中心だったんですけれども、なかなか外への、その先への広がりがなかなか無いということで、年1回ではありますけれども、区政だよりの方に折り込みさせていただいて、直接いま子育てをされてない層にも、こういう取り組みをやっているということが目に届くような形での情報発信に努めてまいったところでございます。

それから、子育て応援マップの方も、一目でどこでどういう事業、どういう施設があるのかわかるようなものになっており、非常に評判をいただいております。

そういったことで、取り組みを進めておるところなんですけれども、あとどういう形でいけば本当に必要なところに情報が届くのかということでは、まだまだ工夫の余地はあるかと思っておりますので、今日はそういうところの観点で、皆さまにご議論いただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○萩原部会長 それでは、これより議案に入ります。

発言にあたっては、手話通訳の関係上、挙手の上、毎回お名前を名乗っていただいた後に、ご発言をゆっくりお願いします。

ぜひみなさんで意見交換をして議論を深めたいと思いますので、いくつか意見があらましても、1つずつご意見をお願いします。

1つ目の項目「子育て支援事業の推進」につきまして、ご発言をお願いします。

中井委員、お願いします。

○中井委員 すみません、関目東の中井ですけれども、子育てフェスティバルは1,700人で過去最高とおっしゃっていましたが、そこに来られた方の年代はどうなっ

ているのかということと、ここへ来られた方のアンケートか何かをとっておられるでしょうかね。取っておられるのであれば、どういうふうな感じだったのかというのが1点。

もう1点ですけれども、30年のあれ見てください、29年度の予算一覧は500万を超してるんですけど、決算は384万7000円。30年も500万円台ですけども、31年は350万円ぐらいに減ってるんですけども、実際この事業ではどれぐらい、300数十万円ぐらいの規模になってて、この500万円っていうのはちょっと多いのかなと、そういう感じですかね。

もっと言えば、平成29年は560万やったのに380万しかなかったというところは、200万近くはどのような事業が無くなったのか知りませんが、どういうことで減ったのか、ちょっと教えていただけますか。

○丹葉子育て教育担当課長 まず、どういう世代層が来たのかということですか、そのイベントに来られた方にフリーにアンケートを取るということを今回行っていませんので、ちょっとその分析について今はできておりません。申し訳ございません。

それから、予算のほうについては、当初そういった入札とか契約事務を行う上で、もともと見込んでいた部分から何かをやめたというよりも、結果として予算がそれでおさまったということで、不用額という形で計上させていただいている次第でございます。

○中井委員 先ほどの、ただアンケートとってないのであれば今後ですね、どういう年代の方が来られてるのか、子育てに関わらず年寄りばかり来てもしょうがないと思うんで、実際どういう方が来られてるか把握をしないとかないけないですよ。だから次回からそういうことで把握していただきたいなど。アンケートしても、満足どうであったのか、地活協ではよく言われますよね。そういうことをちゃんとデータとして持っておかないと、多分上がっているだけで、人がよおさん来たということだけで済まして、いけないんじゃないかということです。

○萩原部会長 それでは、他にご意見はございませんか。はい、小林委員。

○小林委員 小林です。保育事業の充実というところなんですけども、去年より一層予算額の方は減ってますよね。それはだから。

○萩原部会長 すみません。保育事業ではなくて、今は子育て支援事業についての話なので、後ほどまたやっていただいていたいいですか。では、松尾委員、お願いいたします。

○松尾委員 最初の中井さんの質問の続きなんですけど、予算が200万ほど減ったっていうのは、何かさっきの答えだと余ったからとか、使わへんかったからとかいう感じでしか受けとめられないんですけれども、もっと来年度子育ての事業をもっと広げていこうと思えば、当然予算がかかるのではないかなと思いますので、かなり大きな額が減らされてるので、ちょっと理解しにくいです。もう少し詳しく、どうしてもこんなこういう事業を例えばしたとしても、区としてのこういう構想があるとか、区政委員の方から意見を聞いて、地域から聞いて、こういう催しをしたとしても、200万削ってもいけるんやとか、そういうことがあるなら納得というか、仕方ないのかなと思いますけど、ただ単にちょっと理解しがたいのももう少し詳しく。それとやっぱり、新しい事業をするのであれば当然予算を増やさないとできないのではないかなと思います。

私も子育てマップ、この部会になって初めて、申し訳ないですけど見せていただいて、すごく本当にわかりやすいし、どの地域でもしてはるんやなと思って感心したんでね。だからそういうところも少しずつ、たくさん子どもさん、親御さんが来て、やっぱり何かこう、有意義な集まりになっていけばいいかなと思って。私らの成育もちょっと覗いたんですけど、ちょっと時間が遅かったんで、もうお片付けの時間やったんですけども、そういうことに少しでも何かお手伝いできたらいいなとは思ってるんですが、やっぱり何か事を始めようと思ったら予算がつきもんやと思いますんで、ちょっとその辺のことを、すみません。

○縣総務課長 総務課長の縣でございます。予算について、まず全体的な状況を説明させていただきます。運営方針の18ページ、59ページを見ていただけますか。

経営課題ごとに事業名と予算について、30年度当初と31年度算定、それぞれ増減の比較を載せております。

59ページの一番下を見ていただけますか。城東区長自由経費が、いわゆる区が自由に使える予算ですが、30年度が約3億7900万円に対しまして、31年度算定額が約3億6600万円ということで、金額で約1,300万円の減、率で3.4%の減となっております。

これは大阪市トータルとして、非常に厳しい財政事情の中で、区として予算を前年比で1%減らすように、いわゆるシーリングという言葉が使われるんですが、1%減らすようにという指示がございました。

さらに、市内には24区ありますが、規模の大きな区もあれば、小さな区もある中で、例えば住民情報は民間の業者に委託をしておりますが、長期で委託しておりますので、1%減らそうと思っても金額は一定で固定されているので、そういった固定的な経費を考慮すると一律で予算を減らせない区もあります。

そういった事情を踏まえ、24区間で予算の配分の調整を行っておりまして、城東区は比較的、予算規模が大きいということもあり、マイナス1%のところ、結果マイナス3.4%となりました。

そうした中で、個々の事業の増減を見ていただきたいと思います。全体的にマイナスの事業が多くなっています。その中でも、例えば経営課題1で、人権・青少年コミュニティの成人の日記念のつどい事業がプラスに、地域活動の新たなコミュニティがプラスに、防犯も金額は少しですがプラスに、経営課題4のソーシャルインクルージョンもプラスになっています。

また、経営課題5の窓口サービスでは、住民情報の委託が大きく増になったり、庁舎管理が増になっております。集中と選択でどうしても必要なところ、力を入れたいところやどうしてもお金がかかるところを中心に予算を配分しながら、見直しがで

きるところ、例えば、予算を組んでおりましても実際には入札を行いますと金額がいくらか落ちます。落ちた分は翌年度予算を節約しようということで、そうしたところを中心に予算の見直しをさせていただいております。

十分な説明ではないかもしれませんが、よろしく申し上げます。

○萩原部会長 他にご意見はございませんか。はい、東野委員、お願いします。

○東野委員 東野です。3-1-1のところなんですけども、わくわく城東とか子育てマップについては、だいぶ工夫されているなということはよく分かります。

ただ、やっぱり決算額とか予算額を見ていたら、やはりお役所は単年度主義なんで、その部分でやっぱりこれはもう何年か先のことも見ながら、計画を立てなくてはいけなかなと思います。

ですから、何年計画かというのはお持ちだと思いますので、それに基づいて、単年度主義で、てきぱきとやっていただけたらと思ってます。

ただ、縣さんが今おっしゃった中で、住民情報の委託とか、直接ここには関係無いことなんですけども、これ委託は入札で、どこに契約されたんですか。全く関係無いけど、縣さんが触れはったから私も聞いてるんですよ。

○萩原部会長 その質問に関しましては、子育て支援に関しての話題から外れますので。

○東野委員 縣さんが触れはったから私も。縣さんはO.Kなんですね。私はだめなんですか。

○縣総務課長 すみません。本来でしたら、その他のところでご発言いただく内容かと思います。私といたしましては、子育てのところの予算が減ってるというのは、区全体の予算の中の一例として出させていただきました。

住民情報の委託事業者につきましては、民間の業者さんのパソナさんだと思います。そちらに委託をしている状況でございます。

○萩原部会長 はい。他にご意見はございませんか。中島委員。

○中島委員 すみません、公募の中島ですけれども、この3-1の業績目標って書かれてるんですけども、この中に区民アンケートをとって、上記目標が30%に満たない場合、再構築するという言葉が書かれてるんですけども、先ほど中井委員さんが質問された中に、アンケートをとっていないっていうお答えだったんですけど、揚げ足を取るようで悪いんですけども、この業績目標に対して、どういう方針でされていかれるのか。子育ては最重要課題だと思うので、その辺を明確にさせていただきたいと思うんですけども。以上です。

○丹葉子育て教育担当課長 ちょっと私の説明が言葉足らずだったんですけども、各事業に対して、来られた方にアンケートをとる方法と、幅広く、区政の色々な行事とか取り組みに向けてアンケートをとる方法がある中で、これまではそういった事業ごとにとっておったんですけども、事業ごとですと、来られている方が特定の層に偏って広がりがないということで、全体の視野に立てる区民アンケートを活用しようということで、業績目標のところを上げております。

中井委員からありました、イベントに来ている層の世帯構成とか年齢を把握する、そういったアンケートはとっていないというお答えをさせていただいたんですけども、幅広く事業としての評価をいただくための指標と、どういう層がこのイベントに来ていただいて、どういう広がりを出しているのかというところの両方の視点がやはり、委員ご指摘のようにあるのかなと思っております。そのあたりはちょっと工夫してまいりたいと思っております。以上でございます。

○萩原部会長 はい、ありがとうございます。さんも子育て支援事業に○をつけていただいています、何かご意見はございますか。

○委員 ちょっと興味があるなと思ったのは、絵本展とか絵本のイベントをされているっていうのがこの中にあったので、個人的なことなんですけど、私は小学校で図書ボランティアをしまして、月に1回読み聞かせに行ったり、図書開放のお手伝いということをしているんですけども、ここに書かれているのは、ここの図書館でされて

いることだと思うんですけど、長く城東区で子育てをしていただくっていう目標であつたら、ここに来ている子っていうのはちょっと小さいですかね。小学校の図書ボランティアっていうのも、わりと各小学校に、城東区内にあるようなんですけど、学校の対応もまちまちで、はっきり言うてしまうと、活動しやすいところと、しにくいところと色々あるようなんです。

そういったところで、小学校のそういった活動も、小さい頃から絵本に親しんでいると、小学校に入ってもそのまま続くということで、小学校の方へのそういった活動への理解というのも、図書館だったり役所の方からすすめていただけると、ボランティアの方の活動もやりやすくなるのかなと思ったのがありました。

○萩原部会長 ありがとうございます。他に同じようなというか、こういった議論でお話したい方はいらっしゃいませんか。

池山さんも子育て支援事業に○をされていましたが、何かご意見はございますか。

○池山委員 董の池山です。私がちょっと思ったのは、わくわく城東ですかね、区の広報誌にはさみ込まれたのは11月だったと思うんですけど、個人的なことなんですけど、たまたま孫ができたので、城東区に住んでますので、入っててすごい嬉しいなと言っていたところなんですけど、12月は入ってなかったの、今月は無いんだなと思ったんですけど、このはさみ込みはそれだけ部数も必要でしょうし、経費的にはかなりいるものなんですかね。

○丹葉子育て教育担当課長 通常よりも、20万円ほど上乗せする形になりますので、年間毎月そこに挟み込むというのは、なかなか厳しいかなということで、どうやっていこうかなというところも、色々ご意見いただきたいと思っております。

○池山委員 関心のある方ばかりじゃないので、全家庭に配るのもどうかとは思いますが、入ってて嬉しかったので。

○萩原部会長 ちょっと委員として発言をしたいんですけどよろしいですか。

○内山副部会長 それでは議長を交代させていただきます。

○萩原部会長 私は19年間ずっと主任児童委員をやってきて、わくわくフェスティバルも毎年参加してまいりました。

その中で、アンケートの問題も出てましたけども、子どもさんを連れて、おしめを持って、大きな荷物を持って、バギーも持って、そんな中でアンケートを書かせるのはとっても大変っていうのがあるんですね。

なので、今回アンケートを省かれたのはそういった一面もあったのではないかなと推察しています。

その19年間の主任児童委員としての関わりの中で思ったことなんですけど、今までは家庭にいて、いわゆる専業主婦で子育てをされてる、幼稚園あがるまでの子どもたちを対象に子育てサロンを展開してまいりました。

これからは、時代がやっぱり変わってきたんじゃないのかな。専業主婦と共働きの家庭との逆転現象が多分今もう起きていると思うんですね。働かざるを得ないお母さんとか、働きたいお母さんとか、色々、子どものそばにいたいお母さんとか、生き方っていうのは色々あると思うんですけども、子育てサロンに関しましては、専業主婦のお母さん対象の事業だと私はずっと思ってきました。でもこれからはそうではなくて、共働きのお母さんへの、行政として手を差し伸べるというか、子育て中の働くお母さんたちも、そしてお父さんも一緒になって子育てをしていくこれからの時代だと思います。

だから行政の考え方もちょっと変えていくべき時が来ているんじゃないかなっていうのをちょっと思っていて、どういうふうな支援がいいのかっていうのは、ちょっと私の立場では分からないですけど、そういう事もちょっと考えつつ、予算の使い道も考えていただけたらと思います。私の意見は以上です。

ではここで。はい、東野さんお願いします。

○東野委員 ちょっと部会長の意見は長い。それから、あまりにも行政をヨイショしてる感じを受けました。それが私の感想です。

それからもう1点は、事前に今回の部会では、事前議題抽出アンケートのお願いというのが配られていたと思うんです。今聞いてますとね、部会長は誰がどのテーマ選んでいるかというのをご存知なんです。でも私達は知らないんです。アンケートというのは、普通とったらその結果を公表するのが普通ですね。でも、部会長しか知らないって、部会長が指名されると。ちょっと議事運営がおかしいし、それから事務局の方も、これは事前に、この事前議題抽出アンケートなるものの結果を報告するのは普通じゃないかなと思います。

それから、こういう事前議題抽出アンケートというのは、この区政会議では初めてです。今までとられていません。

それから、他のいくつかの区政会議の人にも聞きましたけれども、こういう事前議題抽出アンケートというのは、とってもない。

それから、今まで9時に終われなかったことがあったかといいますと、ちゃんと9時までに十二分にちゃんと終わってる。議論も出尽くした。

ですから、このアンケートの結果については、部会長だけじゃないかなとは思いますがけれども、結果をこの場で発表していただきたいと思います。以上です。

○萩原部会長 はい。時間もきておりますので、とりあえずそれはその他の議題ということで、後ほど取り上げていただきたいと思います。

○東野委員 ちょっと待ってください。何でそんなに急がれるんですか。20分でしょ。20分、20分、20分の1時間でしょ。我々が自由に発言する時間もどんどん削られていくという。まあ時間を気にされてるの分かりますよ。ですが、これは前提条件でしょ。結果公表、それをまず全部知らせた上で次に進んでいただきたいと思います。以上です。

○松尾委員 アンケートをとられたのは1つの工夫として、時間も限られてるし、それは考えられたんだろうなと思ったんですけども。

私はアンケート結果は出てもいいけど、部会長さんと議事を運営されている方だ

けが、誰か出したっていうのを知っているっていうのは、やっぱり普通アンケートって個人の名前を出すものではないと思いますので、それはやっぱり区の方が、アンケートをとってもらって、名前が書く欄があるから私も書いてファックスしましたけど、やっぱり名前は伏せといて、4つのうちの3つを選ぶという、どれが一番、順番的に多いか、1、 2、 3。別にそれは普通に、機械的に決めれると思いますので、名前まで言われると、私もさっきちょっとびっくりしたんですけどね。言われた方もびっくりすると思いますので、ちょっとそれは配慮していただきたいと思います。

○縣総務課長 すみません。部会長からは、その他の議題のところでも回答するようにとのことですが、たくさんご意見をいただきましたので、この場で概要を説明させていただきます。

まず、アンケートの結果ですが、4項目の候補がありまして、それぞれアンケートで議論したい項目をお聞きしまして、9名が子育て支援事業ということで、トップにさせていただきました。

それから、7名が基礎学力支援、同じく不登校支援と回答いただいておりますので、それぞれ2番目、3番目の項目にさせていただきました。

保育事業につきましては6名ですので、今回の3項目には入っておりませんので、その他の中でご議論いただきたいと思っております。

また、アンケート結果に関して、記入いただいた委員のお名前を部会長にお渡ししている件については、こちら事務局の方で提供させていただいております。

この間、区政会議の中で色々ご意見をいただいておりますが、発言をいただく委員の方ばかりではなくて、なかなか発言いただけてない委員の方もいらっしゃると思います。そういった中でも、できるだけ発言しやすい項目で委員の方に発言していただくという趣旨で、運営の一助となるようにということで、あらかじめ発言しやすい項目。この委員の方でしたら発言していただけるのではないかと。活発な議論、たくさん意見が出るようにという趣旨で、あらかじめ部会長にこの委員の方がこうい

う項目について関心を持っておられますという情報として提供させていただいてる次第でございます。よろしく申し上げます。

すみません。お名前の件につきましては、今後の運営の中で検討してまいりたいと思っております。

○奥野副区長　そういうことですので、今日もこれ以降はお名前の公表は差し控えていただきますようお願いいたします。

またこちらの取り扱いについては、東野委員は逆に公開すべきだというご意見がございました。松尾委員は公開したくないというか、されるのは不相当だというご意見もありましたので。

○松尾委員　そんなこと言ってません。

○奥野副区長　そうではないんですか。無記名で。

○松尾委員　名前を書かすことがおかしいと。

○奥野副区長　無記名でということですね。そういうご意見もございましたので、ちょっと今回は。

○松尾委員　意見がでやすくするためには、それはやっぱり前に座られている方の役割だと思いますので。ましてや前に今日なんか人数も少ないですし、それはちょっと、そう思います。

○奥野副区長　それもちょっと整理させていただきますので、今回はもうこれっきりということをお願いいたします。

○萩原部会長　はい、ありがとうございます。あとの議題もございましたので、一つの項目について、事務局の総括をお願いしたいと思います。

はい、子育て支援のことについてですか。

○福田委員　子育てフェスティバルをした時にアンケートをとられると、参加者の意見が集中されるので、ちょっと偏ってしまうと言われたような気がするんですけど、うちの嫁が参加しまして、今年はアンケートが無かったと言われて、色々考え方はあ

るかもしれないですけど、民生委員をしていますので、色んな人にこのフェスティバル参加の働きかけをしましたので、もちろん毎年来られるっていう方がおられますけど、色んな形で広い人たちにお知らせをするので、私は自分が主任児童委員をしたことないから分からないんですけど、参加した人の直接の意見は、それはそれで大事なと思うんです。うちの嫁も時間的に子どもが寝る時間になってもまだ終わらなかったもので、かなり迷ったみたいなこともありましたので、住民全体の意見も聞きながら、直接参加した人の意見も、ものすごく直接の想いが出るような気がしました。

あと、さんが発言されたことで私も気がついたんですけど、勧められて小学校での読み聞かせに行ってるんです。でも、1年生は毎日ですけど、2年生は2週間に一遍。3学期から3年生も入るっていうふうな形で、本当に学校によってそれぞれで、11月の22日に城東図書館でブックトークという読み聞かせをしている人たちで、ちょっと購入しようかっていうことをして、それぞれの学校の違い、それも時間も違えば回数も違う。もう進められる校長先生の姿で全然違うし、それから直接関わる人の想いが読み聞かせる人たちにすごく伝わって、子どもたちとの触れ合いがものすごく豊かになるっていうこともあったりして、この予算を見て、その繋がりが初めて分かって。なんか私は、もうそれこそ1週間、1ヶ月に2回ぐらい行って読み聞かせをしている子どもたちと寄り添ってますけど、この子育て支援事業の中で行われてるっていうことを考えたら、もうちょっと子どもたちに寄り添う時間をもっともっと増やして、それこそ学校に来れないとか、居場所が無いとか、色んなことも含めて、広い観点で取り組みを広げるとか強めるとかっていうふうなことができれば、する側もそれから子どもたちに道で会った時に、読み聞かせのおばちゃんって呼んでもらえるくらい良い関係ができるので、もっと強めて欲しいんだっていうふうに今日来て初めて分かりました。

○萩原部会長 はい、ありがとうございます。すみません、ちょっと時間がないので、子育て支援に関することですか。では手短にお願いします。

○福井委員 すみません、初めて参加でちょっとどういう進めな方なのかとか、色々

ちょっと分かんなくって、アンケートで、私は地域でこども食堂に関わってますので、その事について、これはこれに書いてらっしゃるのは、現時点では当区で補助事業は実施しておらずっていうふうに書いてあって、全く集約をしていないっていうふうになってるので、ここは区としてね、こっだけ大阪市内でもこども食堂っていうのが言われてきているので、もっと把握してもらいたいっていうふうに思います。

ここの子育て支援事業っていうたら、こども食堂なんかね、支援事業の1つに入るんではないかなっていうふうに思います。そういうところ辺が全然書いてないので、今後はそういうふうに考えていただきたいっていうふうに思います。

○萩原部会長 はい。中島さんですか。

○中島委員 公募の中島ですけれども、先ほどからの活発な意見が出てるんですけども、何か時間の制限があるか分からないんですけど、委員長が必死になって前へ前へ進めようとされてるんですけども、別にこの課題全部、今日3本ともクリアしなくても、この1本を十分に活発に意見された方がこの会議の趣旨に合ってるような気もするんですけども、基本的に9時までということですし、あまり時間にこだわらないほうがいいと思うんですけど。これは私独断ですけども、ちょっとそう思いましたんで。すみませんけども。

○萩原部会長 それでは、区役所の総括をお願いいたします。1つ目の項目について、まとめといいますか。

申し訳ありません。中島委員の今のご提案ですね、3つ頑張っただけでもいいんじゃないかという。この1つで盛り上がりでもいいんじゃないかというご意見をいただきました。他にこのご意見に対して、何かご意見はございませんか。はい。

○小林委員 小林です。福井さんは今日初めてっていうことですけど、私は2期目になるんです。部会については、前は福祉部会ということで、私自身は福祉部会を希望したんですけど、なぜか来てみるとこども・教育部会になっていたというところで、本来ならば福祉の方が自分の知識とか自分の考えとか、色々お話できる機会が多かつ

たように思うんですけれども。それとですね、2期目でありながら、アンケートの中身についてもちょっと私自身の理解が浅くって、何でこれ4つしかない項目の中で3つを選びたいなとここで、戦略に関わってくる中身の中で、これはあんまり大したことないってことは無いはずなのに、何でそれ4つうちの3つで、1つはどうしてもええんかみたいな感じで取れてて。

何かその進め方が、誰がこうした方がいいということでこんなふうになってるか、そこらちょっと説明していただかないと、ちょっとあれなんかなというふうに感じておりますけども。

○奥野副区長 この改善というか、元々しようと思ったのは、これまで部会については、例えば極端に言えば、1人の方が子育て支援の話がされると、次の方が教育の話がされたりとか、その次にまた子育て支援の話に戻ったりということで、単発、単発で色々お話があったというような。これは皆さんもちょっと実感されていることもあるかもしれませんが、そこら辺が議論のまとまりのないというような部会になってたんじゃないかなと。それが良いという意見もあるかも分かりませんが、もう少し意見をまとめるような形でやった方がいいのではないかとということが、事務局としても課題がありましたし、一部委員の皆さんからも、そういうお声をいただいたんで、じゃあどうしようか、1つの課題をまとめて、少し掘り下げて議論をしてもらうという。部会の運営でも一問一答の形で、何か答弁方式という、それも1つの区政を理解していただくためには必要なんですけれども、そういった形がずっと続いていたので、なかなか委員同士で話し合いをされるということが無かった1つの原因が、いわゆる先ほど申しました、意見があちこちに飛んでしまうということで、この意見についてこういう意見をしたいなと思ってたら、別の意見がぽっと出てしまったんで話が流れてしまったということで、こういうような、冒頭申しましたように試行錯誤の段階ですので、一遍こういう形でやってみたらどうかとかということやらしていただいて、前回、地域福祉でやって、今回、このこども・教育でやらせていただいているというこ

とでございます。

その中で、テーマ制につきましては確かに、中島委員さんのように1つで盛り上がったら、1つを掘り下げたらいいやんかという意見もありますし、また、おっしゃっておられますように、どれも大切なんだから、順序立てするのはあれかというようなことも確かにあると思います。その辺は柔軟にはしていかないといけないと思いますので、今日はちょっと、どちらが正しいとかいうこともやってみないと分からないですけれども、本日ご意見をいただいてということもありますし、また議論の流れというのもありますので、いただいたご意見を参考にし、他の部会の動きも見ながら、よい良い部会運営を模索していきたいと思います。

今回のこの取り組みが必ずしも絶対で、ずっと続けていこうというふうには思っておりませんので、その辺をご理解いただきたいと思います。思っております。

今日については、最大9時までということですので、1つ1つテーマを積み重ねながら、今回、戦略は4つありますので、4つ目についてもその他の事項ということでもらいたいと思っておりますので、ご理解とご協力をお願いしたいと思います。

○萩原部会長 それでは、子育て支援事業の推進について、何か他にご意見がおありの方はいらっしゃいますか。はい、中島委員。

○中島委員 すみません、先ほどのアンケートのことなんですけども、区の方が一生懸命されてるのをここに羅列されていることを、アンケートすることによって皆さんにもお知らせできるんじゃないかなと。

それをすることによって、やっぱり数字が必要だと思いますので、数字をアップするためにアンケートをすることによって、これだけの数字があがっている、これだけの数字が上がってる。だから先ほど言われたように、シーリングがマイナス1%と言うてるけども、この子育て事業はこれだけのことやって、これだけの実績があがってるからこれだけ予算くれと、課長さんが区長さん、市長さんに対して大きな顔で言えるんじゃないかなと。そのためにも、アンケートという武器を最大に利用された方

がいいと思うんですけど。ごめんなさいね、偉そうに。以上です。

○萩原部会長 はい、他にご意見はございませんか。では、ここでひとまず切らせていただいて、総括をお願いしていいですか。

○丹葉子育て教育担当課長 おっしゃられるように、アンケートの活用というのは、まさに我々の事業を後押ししてくれるものだと思うので、来られた方の負担も考えつつ、我々が指標とするバランスも考えつつ、どういうやり方がいいのかっていうのは、ちょっと工夫してまいりたいと思いますので、またアンケートが始まったら、是非ご協力をよろしくお願いしたいと思います。

それとあと、読み聞かせの絵本のところなんですけども、これも、例えば先日のSARUGAKU祭をやった時にも絵本と紙芝居を含めてコーナーを出してたんですけど、なかなかやってるよというのが伝わらない部分があって、他のイベントで、他の目的で来られた方を立ち止めてまで引き寄せるところまでの力が今は無いような状況ですので、そういったところのやり方も、実際色んなところでご経験されてる方のご意見も踏まえながら、事業の構築というのをまた考えてまいりたいと思いますので、本当に貴重なご意見を色々いただきましてありがとうございます。

○萩原部会長 はい、では続きまして2つ目、具体的取り組み3-2-1、「子どもたちの基礎学力や体力の向上について」、事務局より説明をお願いいたします。

○丹葉子育て教育担当課長 そうしましたら、引き続き私のほうから座ってで申し訳ないんですけども、ご説明させていただきます。

27ページをご覧いただきたいと思うんですけども、まず城東区では、基礎学力、体力の向上を目的とする取り組みと、あと学校支援としまして、中学校等の場所において、中学生対象の学習会を実施しています。

具体的に言いましたら、JOTO塾という形で学習塾に似た形ですね。事業者を選定して、希望する子どもを夜間集めまして、学習支援というか分からないところの勉強を見ていただくという形で、今現在は家庭教師のトライというところにやっていた

いております。

場所的には蒲生中学と東中浜の集会所を活用して実施しておりまして、週2回やっております。

今、蒲生中学校の方の定員が30名、東中浜が20名ということでやっております、それぞれ定員に近い満杯状態で運営できております。

あと、次に小学生ということですが、中学生の場合は2ヶ所で、北方面が蒲生中学校に集まっていただく。南の方が東中浜集会所に集まっていただくということで実施しております中学生は、ある程度行動範囲が取れるものですからそういう形でやっておるんですけれども、小学生の子どもにつきましてはそういうわけにはいきませんので、学校が終わって放課後の4時半から5時半までの1時間、学校の教室を使って実施するという形でやっています。

また、先ほどのJOTO塾のように、本人が強く希望するという形で参加するんじゃないくて、普段の学校での様子を見て、校長先生が担任から報告を受けて、この子はちょっとそういった形でみんなより遅れてきたから、何とか支えないといけないということで、校長先生から推薦いただいた方を時間外学習会という形で、支援するという形をとっております。

今年度はそれが4校、小学校16校あるんですけれども、そのうちの4校で実施できた状態です。ニーズはもう少しあるんですけど、なかなか教える側の有償ボランティアの方と、開催する時間、場所というのがなかなかうまくマッチングできない状況もありまして、今この状況にとどまっていますので、そういった人材の確保の方法であるとかそういうことも含めまして、また色々な皆さんからのご意見等もいただけたらと思っております。

それから、体力向上につきましては、今、小学校を中心に体育用品、体育用の備品を区の予算で購入しまして、なかなか学校単位で買うことができないというのもありすので、区の方で買しまして、「こんなん買いますから使いませんか」という形で、

各小学校の方に照会させていただいてるようなやり方をやっています。

今年度は相撲マットですね。相撲の土俵の形になったマットとまわし。簡易に締められるまわしを買って、それを体力向上という形の取り組みとして各小学校の方に推奨させていただいております。

なぜ相撲かというところにつきましては、城東区は城東小学校には土俵もありますし、もともと葦には国技館があって、相撲にご縁のある土地柄だということで、郷土愛といいますか、自分が暮らしていたところの伝統文化に触れることもできて、体力作りができて、あとはそんなにスペースが要らないということもありまして、今回相撲を取り入れさせていただいておる次第でございます。

これについても各小学校から好評をいただいておりますので、31年度もこういった事業を進めていきたいなと思っておる次第でございます。私からの説明は以上です。
○萩原部会長 では、子どもたちの基礎学力や体力の向上につきまして、皆さんのご発言をお願いいたします。はい、中井委員、お願いいたします。

○中井委員 すみません。ここの基礎学力っていうのは、何を主にしてやっていかれるんですか。

体力というのは体力テストをやっていますので、基礎学力、私は自分の小学校しか知りませんが、全国一斉テストとかありましたよね。そこに国語、算数、今年は理科と社会もあったんですかね。非常にデータが小学校ごとに細かく出ております。

うちの小学校は何が弱いのかとかが出てるんですよ。そういうのが城東区で16小学校あると思うんですけども、城東区としてそういう学力のここが弱いという傾向があるのか無いのか。そういうのも色々捕まえて、把握して、どういうふうに取り組んでいったら、塾とかはそういうのもいいんですけど、結果的には全体的にどこが弱いんやという、まずそこを掴まないといけないんじゃないかなというふうに思うんですけども、そこら辺をどういうふうにご考えておられるのか、ちょっとお聞きしたいと思います。

○丹葉子育て教育担当課長 学力テストとかその結果に基づいては、各学校の方で把握されてて、その強み弱みというのは分析されて、どういう授業の立て方がいいのかというのは、学校として取り組んでおられると思うんですけども。

我々がやってます事業につきましては、JOTO塾につきましては、英・国・数の3科目をやってまして、参加される方の学力も個人差がありますので、だいたい1人の講師の方に5人ぐらいでグループ分けして、その時その時の授業の内容とか、そういうところのレベル感を合わせる中で、何とか向上に繋がるような形で取り組んでおるものです。

小学校の方の時間外学習会については、その時点その時点で、ちょっとみんなに遅れてきてるなということで、ご家庭の方に説明して、そういうものに参加しませんかということで、同意された方に参加いただいているということで、特定の科目について常に教えていくとかそういうものではなくて、その子どもの状態に合わせて、有償ボランティアの方にフォローいただいているという状況でございます。

今、委員からご指摘がありました、そういったせつかく色んなテストで状況を把握しているんだったら、それにマッチングするような支援のやり方も必要なんじゃないかというご意見だったと思いますので、そのあたりについても、どこまでそれがJOTO塾なり、そういうところと組み合わせできるんだというのは、各学校が抱えている分析等もありますので、学校とのそういった活用について、意見交換する時期があると思いますので、そういったご意見を踏まえた議論を一度してみたいと思います。ありがとうございます。

○萩原部会長 はい、中井委員、お願いいたします。

○中井委員 すみません。またお金のこと言います。30年度を見ますと、29年度の予算額が424万円ですよ。これ見ますと、実際の決算は89万3000円。先ほどよりもかなり大きく減ってるんですけども、ここら辺はどういうことで減ったんでしょうかね。

色んな事業をたくさんやろうと思ってたけどできなかったとか、そういうことな

んでしょうか。

○丹葉子育て教育担当課長 学習支援の予算につきましては、ほとんどボランティアで来ていただいている方の交通費であるとか、お礼のところの報償金になりますので、それが予算を組んだものに比べて、実際に執行したものが少なかったということの乖離。それがなぜ少なかったかというと、先ほども申しましたように、ニーズと来ていただく方の時間とか科目であるとか、関わりのマッチングがなかなかうまくいかなかった部分で、結果として使い切れなかったというのが実態でございます。

○萩原部会長 他にご意見。東野さん、お願いします。

○東野委員 東野です。前々から言っていますけれども、3-2-1の①ですね。

塾代助成制度。これはもうこの前の市会でも言われたと思います。質問とかね。やっぱり何年間もやってきたら総括をされますね。そしたら、この教育効果がどれだけあったのかという検証をね、塾代助成制度についてはやっていただきたいという希望です。

それから、飛んで③です。体育用備品、今年度は相撲マットとまわしということですが、これは現場からの希望を、それとも有無を言わせず上から配付するというような、どちらでしょうか。

○丹葉子育て教育担当課長 16校ありますので、もともと相撲の取り組みをやっていた学校では当然こういうのが欲しいという声があります。

いや、これよりももうちょっと違うものが欲しいという声も確かにあります。その中で、限られた予算ですので、今年度は相撲用の備品を購入することにしました。

また今後、区の予算を使った支援事業については、どういうのがいいのかというのは、各校長先生の方から色々お聞きして、その都度バランスの取れた形で執行していきたいと思っております。

○萩原部会長 はい、他にご意見。福井さん、お願いします。

○福井委員 私もこの相撲マットについては、なんで相撲なんやろって。国技館って

いうことは、私も古市地域なんでよく分かるんですけども、女の子もするんですかこれ。まわしとかして。高学年になってくると、やっぱりそういうのはちょっと嫌っている子も出てくるんじゃないかなと思うんですよね。

そういう中で、今も東野さんが聞かれて、学校からの要求がすごく強かったとかね、そういうのがあったらあれですけども、そうでもなければ何か聞いたら、まあマットがええなみたいな感じだったら、ちょっとこれが体力向上推進っていうことね。全員ができるんだったら推進事業ということで当てはまると思うんですけども、ちょっといかがなものかなっていうふうに私は思いました。

○萩原部会長 はい、では石塚さん。

○石塚委員 石塚です。相撲大会に関しては、関目では毎年、年に1回相撲大会が小学校を借りて行われてます。主催が青少年と協議会の協働かな、ちょっとはっきり忘れちゃったんですけど、毎年ずっと長く行われてまして、女の子ももちろんたくさん参加されて、学年別で優勝者を決めてということで、毎年盛り上がっては行われてます。

○福井委員 全員ですか。

○石塚委員 全員じゃなくて希望者を募って、日曜日の夜に保護者も連れてきてという形ではありますけれど、やっています。

○福井委員 こういうのは全員が対象となるものの方がいいのではないかなっていう意味で、相撲が悪いとかどうのこうのではないんです。国技館もあつたし、それはそれでいいと思うんですけど、やっぱり学校に置くものとしては、そういう全員が使えるものの方がいいのではないかなっていうふうに思ったから、意見としてあげさせてもらいました。

○大谷子育て教育担当課長代理 子育て教育担当課長代理をさせていただきます大谷と申します。

以前から城東小学校では、授業の中で相撲に取り組みられてまして、低学年のうち

から相撲に取り組みられていますので、高学年になっても生き生きと、女子児童の方もされていると聞いておりますし、実際、今年の5月か6月に相撲大会の見学に行かせていただいたんですけども、高学年の女子児童の方も元気に相撲を取っておられましたし、他でこの事業を立ち上げるにあたりまして、相撲の指導をされている、相撲経験のある他の小学校の先生の話聞きに行かせていただいたんですけど、実際やりだしてみると、男子よりも女子の方が生き生きと相撲に取り組まれているというようなお話も聞きましたので、実際には女子だから男子だからというふうなことで、大きな差が出てくるようなことではないのかなと考えてさせていただいているという次第です。

あわせて今回、学校の先生向けに研修会もさせていただいたんですけども、そちらの方でも女子相撲の世界大会に行かれた方をお招きして、女子でも楽しめるんだよということをお話していただきましたので、男子女子という隔てなく、今は楽しんでいただける時代じゃないかなと考えている次第です。よろしく願いいたします。

○萩原部会長 はい、ありがとうございます。他にご意見はございませんか。

○東野委員 また喋っちゃいました。これは私の経験なんですけども、東淀川区のある小学校で、ある議員さんがプッシュされて、そこの現場は何も欲しいと言わないのに土俵ができて上の屋根もついて、そして授業で相撲をやれというなことがかつてあったんです。

でも今はどうかというと、もう誰も使わないのでひびがいて。ですからやっぱり現場の意見を聞いていただいて、お金を有効に、我々市民の税金ですので有効に使っていただきたいと思うんです。

今回の体育用備品も、これはもう少額でしょうけれども、集まると大きな金額になりますので、そのところはやっぱり小学生の体力向上ということで、余りにもこう縛らないで、現場が使いやすいような予算の立て方をさせていただきたいと思います。以上です。

○萩原部会長 はい。では2つ目の項目につきまして、ただいまの議論を受けての総括をお願いいたします。

○丹葉子育て教育担当課長 子どもの数が基本的には少なくなっている中で、どういう事業が効果的に役立つのかというところは、我々が一方的に決めてるわけではなくて、まず校長会で意見を聞いて、ただ16校ありますので、その中で全て同じ声が上がってくるわけではないので、どの順番立てで物を買って揃えていくのか。消耗品とか、無くなっていくというものではないので、1回使ったらもう終わりというものではないので、30年度は相撲になりましたが、来年度はまたどういう形で行うか現場の声を聞いて、それが一定期間繰り返されると、ある程度充実したものになるんじゃないかなと思ってます。

ただ、劣化もしてきますので、それをどう回していくのかというと、今、委員からあったように、買ったのは2年経ったらそれをどこにしまったか分からんというようなことにならないように、我々もしっかり備品の管理をしていきたいと思ひますし、より時代に合ったものにしていきたいと思ひます。今日は貴重なご意見ありがとうございます。

○萩原部会長 はい。では続きまして、3つ目の項目。具体的取り組み3-2-2「不登校など課題を有する児童生徒に対する支援について」、事務局より説明をお願いいたします。

○丹葉子育て教育担当課長 同じ27ページの下の方のところですけれども、現在、区内の小中学校の不登校生徒児童を対象にしまして、主に学習支援を中心としたプログラムを提供して、個々の事情に応じた支援を行っております。

具体的には、毎週火曜と木曜日に昼の1時から5時まで、城東区の子ども・子育てプラザにおいて「城東ふらっと教室」、こちらの方も事業者にご依頼をしまして、現在のところは先ほどのJOTO塾と同じ家庭教師のトライのほうで事業を受けていただいているんですけども、自分のその日勉強したいなと思う物を持ち込んでいただいて、

その生徒児童さんのペースに合わせて取り組みをやっておる次第でございます。

あとは、そこだけではなかなか子どもの気持ちが向かない、利用できないということがあってはいけませんので、その子どもが今日は行きたいなと思った時に行けるような環境として、城東区からは出てしまうんですけども、トライの京橋校、都島区にトライの京橋校がありますので、そこについては月曜日から土曜日まで、9時から16時になりますけれども、その時間帯にはフリーに来ていただけるような事業展開をしております、トライのネームバリューもあるのか、利用される方も増えてきたということで、成果が上がってるものと思います。

ただ一方で、こちらは28年から始めた事業ですけれども、28年、29年の2年間はトライとまた違う事業者がこの事業を受けていただいております、その事業者はどちらかということ、学習支援というよりも不登校、家から出れない、人と交わることが苦手だという子どもをどう支えていくのかという活動を主にされてきた事業者でしたので、そういうところでの強みを発揮いただいたんですけども、学習支援というところでは、そういった不登校というイメージが参加しようという一歩を疎外するのか、なかなか参加者の人数が上がらなかった状況があります。

また、トライに変えたら参加する人がたくさん増えたけれども、学習の方への期待値で皆さんは来られているので、本当にそういう家から出れない子どもへの支援がどうなのかなという、ちょっと今我々の事業としても、本当は両方ともカバーしたいんですけども、一つの事業者でそこをカバーしきれるような事業者がなかなかおられない、100人の不登校の方がおられたら100通りの原因がありますので、それをどうフォローしていくか苦慮しているところもありまして、要はそういったことも含めて委員の皆さまにご議論をいただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○萩原部会長　それでは、不登校など課題を有する児童生徒に対する支援につきまして、委員の皆さまのご発言をお願いしたいと思います。

どなたかご意見ございませんか。はい、中島委員、お願いします。

○中島委員 公募の中島委員です。今、城東区で不登校って言われる子どもさんは、小学校、中学校、高校で何人ぐらいいてるのか、把握されているのかどうか。

それとあと、初歩的な質問ですけど、不登校という子どもはどういうふうに定義されているのかお聞かせ願えますでしょうか。

○丹葉子育て教育担当課長 まず定義につきましては、学校を休む日数が30日を超えた子どもが、統計的には不登校という形でカウントされていくことになるんです。

年間30日を超えてしまった段階で不登校という定義に入るということで、集約がされております。

委員からありました、じゃあどんな子どもがいてるんだと、その数を知らないとな事業がなかなか進まないというものもつともなご意見だと思うんですけども、なかなかデリケートな問題ですので、ちょっと行政区ごとの情報というのは開示されてませんで、今、大阪市としては市全体の数としては、小学校に何人、中学に何人いますよという情報は出ているんですけども、区別の情報を出していただけてないので、その点はご了承いただきたいと思います。

まず小学校としましては、29年度が817人。学年とか年齢とかは出てないんですけどおられるということで、1年前の28年度は742人。27年度は608人と、ちょっとずつ増えている傾向にありますということです。

中学校のほうは、同じく29年度が2,680人。28年度が2,649人。27年度が2,497人と、大阪市の不登校数ということで公表されておまして、いずれも増えてきています。

それからすみません、全体の母数が何人かというところは、ちょっと統計資料の方と今持ち合わせておりませんので、分かるようであれば後日公表させていただきたいと思うんですけど、今は数字的にはそういう状況になっております。

○萩原部会長 はい。では他にご意見はございませんか。では、福田委員、お願いします。

○福田委員 小・中のことは言われたんですけど、高校はどうなんですか。

○丹葉子育て教育担当課長 高校となりますと、居住地と行く学校と、私立、まあ中学もそうなんですけども、私立、公立、国立と色んな選択肢があるので、統計が私どもの方で今取れてませんので申し訳ございません。また色んな資料を調べる中で何か見つけることができたら、機会を見てお伝えさせていただきたいと思います。

○萩原部会長 はい。では福井委員、お願いします。

○福井委員 区では開示されてないってということなんですけど、把握はされてるんですね。

○丹葉子育て教育担当課長 大阪市の数字が出るということは、個々の細かな数字もきっとあるはずだと思います。ただ、我々もその事実も含めて、大阪市全体でしか公表しないということで、我々も情報がいただけてない状況となっております。

○福井委員 区でもご存じないということなんですか。

○丹葉子育て教育担当課長 そうですね。

○福井委員 区から大阪市にあげた数字だから区が知っておられるのかなと思ったんですけど。

○丹葉子育て教育担当課長 各学校から教育委員会の方に行って、教育委員会が全体を把握して公表してますので、そのフィードバックがいただける事業もあれば、デリケートな問題ですから、そこまでの開示がされないものもあるということで、これはちょっとデリケートな方に入ってるということでございます。

○福井委員 そしたら、支援事業をやってて成果があったとか無かったとかってというのはどうやって把握されているんですか。

○丹葉子育て教育担当課長 何人にこの支援ができたから良かったというものではなくて、常にそういうオーダーがあった時に、一つ一つ答えていく形でしか今のところは評価ができないような状況ですので、こちらの方でも前年度よりもそういう方が増えたからそれが良かったのかというと、ちょっとそれも違うかなと思いますし、全体

の数に対して占める割合がどんどん落ちていってこそ初めて良かったのかなと思うんですけど、ちょっとまだそういうところの整理も含めて、どういう形の関わりが事業として良いのかというところを、28年度から始めたところの事業でございますので、色々な模索をしているところでございます。

○福井委員 もう1つすみません。それと、業者さんによってそういう違いがあったってことですが、両方の業者さんに頼んでできないんですか。

○丹葉子育て教育担当課長 まさにそのやり方を良いとこ取りできないかなということで、我々この事業者を選定するのに、公募して、単にお金が安いからだけで決めるのではなくて、中身についてもプレゼンテーションしていただいて、この中身でやってくれるのならということで選定していくんですけども、その立て方もどういう形が良いのかということで現在模索しております。

31年度の予算としては何とか計上しているんですけども、その予算をどういう事業者ターゲットを絞ってやっていくかというのはこれからまた詰めてくんですけど、そういうのも含めて、何かまた良いアイデアをいただきたいと思っております。

勉強が遅れてるために行けなくなった子どももおられるでしょうし、何とか頑張っただけで学校に行こうと思ったけれども、休んでいた期間があって今の授業についていけない。だからそれがまた二次的にそういう要素になる。色々なケースがありますので、そういう部分でいうと、委員ご指摘のように色々なバージョンの事業者の強みを集めるのが一番だろうと思うんですけど、なかなかまだ事業者がそんなに沢山あるわけではなくて、トライは学習塾のノウハウを持っているところに、そういったケースワークとかカウンセリングのスキルを足して工夫されてるけれども、やはり主体は学習支援になっておられるというような状況ですので、こういう事業者があるのかというのを我々も今、色々なところで情報収集しているところでございます。もしどこかで、ここでこんな取り組みをやっていたよというようなことがありましたら、ご教示いただけたらと思っております。

○福井委員 いっぱい言って悪いんですけども、やっぱりそれと、事業者さんばかりあてにせんとね、基本は学校の先生じゃないかなっていうふうに私は思うんですけど、学校でどういう取り組みをすることが必要ではないのかなってというのが一番思っています。

○萩原部会長 はい。では今、学校でどういう取り組みをっておっしゃいましたが、これについて何かご意見はございますか。これについて何かご意見はございませんか。松尾委員、お願いいたします。

○松尾委員 学校の取り組みでこういうのっていうのは分からないんですけども、30になります私の甥っ子が蒲生中学で不登校になりまして、私の妹の息子ですけど、やっぱり親はかなり、片親でしたし、子どもも一番苦しんでると思いますけど、親もかなり辛かったということで、今はもう働き出るようになりましてけど。

私も何かお話を聞いたことがあるんですけども、やっぱり引きこんでいる子どもの方がやっぱり命を自ら落とす。どんなに悪くても、外に出て、昔で言うたら不良っていうか、やんちゃな子ども同士で遊んでる方が仲間がいるから、やっぱり1人になるっていうことは、本当に自ら命を落とすっていう危険性が多々あるっていうことで、まして、今はやっぱり働いている親が多いですし、子どもが家に1人でいてるっていうことで、子どもも精神的に色々な面で病んでるから。そんな好き勝手、好きなことばかりはできないと思うんですけど、動けないっていうことで。

だからやっぱりそういう意味で、学校に來れなくなる前に子どもの異変を、意外と親が働いていたりすると、そういう意味じゃないですけども、なかなかやっぱり親だけの目では子どもの異変を見つけにくい。もちろん見つけられないんですけどね。

やっぱり先生たちの力を借りて、最近何何君がちょっととかいうね、やっぱりそういう先生と、なかなか中学校になると、小学校、中学校になると担任の先生とお話する機会も少ないですし、本当に親が自ら学校に出向いていかないと、先生もすごい

忙しいってということで、私も娘が中学の時に色々クラブのことで先生に問題があって、お伺いしに行ってたんですけど、本当に親から学校に行かないと様子も分からないっていう状況になっているので。割と保健室の先生が、ちょっとしんどくなった子どもを、ちょっと寝るだけで気持ちがほっとするとか。だから本当にその病んでいく子は勉強ができる出来る、出来ないよりも、本当にしんどくなって動けなくなっていくのが実態やと思ってるんですけど、だからその学校でもやっぱり手立てを、トライ、民間の方が上手だとは思いますが、本当にお仕事、商売してはるから。だけどやっぱり、学校の先生とか保健の先生っていうのは子どもを育てるとい、見守るとい、うね。育ちに責任を。親もですけど、その気持ち的なところはね、その塾の先生がどうやとかではないんですよ。もちろん愛情を持って仕事されてる方も多いですし、塾で助けられたとかいう子どもさんもいてはるかもしれませんが、勉強がなかなか学校ではね、細かいとこがついて行けないっていうのは確かにあると思うんですけど、やはり何をしたら良いかっていうのは難しいんですけど、とにかく学校で保健室の先生を充実させていくとか、何か学校でやっぱりね。

もう子育ても終わって、おばあちゃんのあれですけども、やっぱり何かそういう空間とか居場所とかいうのをみんなで作っていかなきゃいけないんですけど、学校がやっぱり一番の居場所になるようなことをみんなで考えていかなきゃいけないなって、私も自分に言い聞かせてる部分もあるんですけど、なかなかそれが、本当に難しいことやと思いますけれども、そこにやっぱりちょっと力を注いでいただきたいと思っています。

○萩原部会長 はい、ありがとうございます。他にご意見はございますか。では、小林委員、お願いします。

○小林委員 子どもじゃないんですけども、18歳から、成人に自立訓練施設の管理者をしています。

よく外からホームページを見たとか、問い合わせの電話がしょっちゅうかかって

くるのはほとんど子どもなんですよね。中学生で学校へ行ってないんですけど、そちらを利用することができますかという問い合わせが。高校生の場合は役所との相談っていう話をすることがあるんですけど、中学の場合はうちを利用っていうのはちょっと難しいので、もうちょっと児相であるとか保健師であるとか、ソーシャルスクールワーカーとの話し合いでという説明はさせていただいてるんですけど、そういうのがよくあるんですけど。

勉強も外へも、そのいくつも、福井さんおっしゃったけど、要求してもその辺は難しいんじゃないかなというふうに感じています。

私が携わっているのは18歳以上の大人ですけれども、勉強がついていけなくていじめにあったとか、そういうこともあって、勉強を聞いても何を聞いているのかも分からないっていう、もうその授業に行くことが辛くなったという方が沢山いらっしゃるんですけども、不登校になる原因はそういう勉強のことだけでなくって、でももっと小さい段階からの親の関わり、アタッチメントであったりとか色んな、発達の方がかなり以前より増えてて、この10年間、発達の判断ができるシステムが構築されたということがあって、発達というふうに判断される方も増えていますが、それについて、そしたらこっちが子どもとかをソーシャルワーカーとして抱えられるか、勉強教えられるかっていうと教えれないんです。

何もかも、両方とか言ってもその辺は難しさもあるんだろうと思うし、今はわりかし中学校は不登校でも卒業させますので、大阪府は高校助成、無償化ということで、私学に行くとか諸々の、修学旅行とか色んな諸々のお金がかかるけれども、授業料自体は無償化というところで、結構私学の総合教育学科というふうな名前の特別支援学級とか学校に行かれています方がすごく多くって、そんな人が結局、次へ行ったけど2、3ヶ月で辞めて、もうしばらく、半年以上、1年も家にこもってるような方が結構多いんですけども、もう本当に今感じてるのは、そういうことに思齊とか生野とかの特別支援学校の方が本当に良い教育っていうか支援をされてるなというふうに感じている

ます。

本当に高校を卒業してきたっていうのに、数学じゃないですよ、算数もできないっていう子が。普通3年生までの算数と国語ができれば、日常生活には困らないって言われてるんですけど、それさえできないっていうふうなこととか、生活マナーとかリズムがついてない人がすごくて、それを何もかも学校にっていう、その辺は難しさがあるっていうふうには感じているし、先生も余裕が。精神疾患を患う人の職業、まあ区長は教育委員会からですけども、すごい多くて、先生に余裕が無いのにそんな子たちに色んなことを教えてください、やってくださいって言ってもそれは難しさがあるかなというふうにはちょっと感じています。

○萩原部会長 はい、ありがとうございます。では、中井委員。

○中井委員 すみません。一応不登校ですね、非常に大きな課題なんですけども、不登校と言いましても色々ありまして、精神的に病んで引きこもってる。そうじゃなくて、もともとやんちゃな子と遊んでる方が面白いから不登校。そういう、大きく分けて2つぐらいあるんですかね。

あとですけども、あんまり何というかテーマを広げずに、本当に精神的に病んで引きこもってる子のケアをどうするかということを最優先と。なぜかという、やっぱり命を落とす子もいますんで、やっぱりそういうところに絞ってやった方が良いんじゃないかなという気はします。

私は仕事柄、地元中学校で年に2、3回情報交換をするんですけど。最近の傾向はやんちゃなんはもうほとんどおりません。減っております。深夜徘徊とかそういうものはどっかその辺で、どっか公園でタイムンをはる、そういうのは無くなってきてます。何が増えているか。登校している子でも引きこもり傾向にある。なぜか。SNSです。それで目に見えない相手と話をしている。1人の場合なんか、家でをした子なんですけど、1回も会ったことも無いのに、奈良の五条に住んでるおじさんのところへ家出をして行ったという事例も聞いてます。

そういうことで、SNSということで学校の先生も非常に範囲が広がって、把握しづらくなっていると。自分とこの地域だけじゃなくて、範囲が広がり過ぎてると。そこから辺をどうしていくかということで、今、先生たちは悩んでおられます。

そういう意味で、やっぱり不登校全てをひっくるめずに、やっぱり重点的にこれというふうに、一番そういう子どもの人生に一番大きく関わることを、やっぱり命を落とすということが一番大きいことですから、やっぱりそういう精神病んだ子をケアしていくということに絞って、学習能力を上げるとかじゃ無くって、そういうところに絞っていった方が良くないのかなというふうに思います。

○萩原部会長 ありがとうございます。はい、では東野委員、お願いします。

○東野委員 現場の先生のしんどさというのは新聞等で賑わせてますけれども、団塊の世代が退職して行って、新しい若い先生がどっと入っていますね。勉強したい、自分がもっと良い教師になるためにね。でも、例えば先生の数が増えない。心理カウンセラーを充実するのも良いことなんですけれども、それと同時に先生の数を増やしてほしい。

トライは、あれは塾ですから生活指導はやってくれません。でも教師は、勉強も、それから生活指導もやらざるを得ない。ですから、私はもともと教員でしたけれども、例えば、勉強したい、色んな実践とか研究をされてる方を呼ぼうとしても、教育委員会が予算で研修費が出ない。勉強する以前に疲れてはるわけですけれども、例えば勉強したいと思っても何がしかのお金が必要でしょう、研修やろうと思ったら。その先生に来てもらうと思ったら、そのお金はどうするかいうと教育委員会がその研修費は出せないと言うてるから無理ですとかね。

そういうような、集中と選択とおっしゃるんやったら、現場の先生方にプラスになるような集中と選択をやっていただきたいと思います。以上です。

○萩原部会長 はい、ありがとうございます。では福田委員、お願いいたします。

時間が来ておりますので、福田委員に最後にしていただいて、その次の、その他の

議題に入りたいと思いますので。では、福田委員、お願いします。

○福田委員 集中する発言の仕方をしないといけないんですけど。

○萩原部会長 申し訳ありません。

○福田委員 いえいえ。あまり関わりが出来ないんですけど、居場所づくりを城東区で始めたと思うんです。きっと大阪市全体でこのような取り組みを始めたと思うんですが、今のような事情も含めてされたことによって、どんな良いことが生まれてきているのかなっていうのを一度聞きたいなとずっと思っていたんです。

それから2つ目は、不登校っていうのもちょっと課題ではあるんですけど、10時半くらいに学校に来るっていう子どもと出会って。そしたらもう、毎日毎日迎えに行くんですけど、迎えに行った時はまだ起きてないっていう感じで、結局、長い取り組みの中でゲームして夜遊んでいるから朝起きれない。

不登校にはならないけれど、そういう生活が目につかないっていうか、きちんとした生活をしようという思いが、親の側にも無いっていうのがあって、学校に毎日毎日報告しましたが、「福田さん、教育のことには手を携えるけど、家の事は手を携えないんです」って、教頭から言われてまして、私、そんな学校って、どんな学校って思うくらい、教育をみざす子育てについてね、教頭先生がそういう考えを持っているということにびっくりした体験しまして、そしてその後、クラスの先生に言わせて、家庭訪問の時に、もう365日同じ洋服があって、お風呂に入らない、洗濯した洋服を着ていないというふうな状況だったんで、遅れてはいるけれども10時半じゃなく9時ぐらいっていうふうな感じになってきているので、不登校のことも含めて、居場所づくりをしながら、盛んにこども食堂に誘ってね。もっとう、基本的生活はこうしたいといけないっていうことを親子共々身に付くことができるような形がとれたらいいなっていうことで。

3つ目は、お金の使い方ですけど、成績で子どもを考えるんじゃなくて、やっぱり社会に出て行った時に人間として生きていける。それこそ市民税、府民税がきちんと

払えるような働き方ができるような人に育てることも、不登校を通して、人づくりの意味があるんじゃないかなってというようなお金の使い方をね。今のところだと何このお金が使われてるかっていうのが分からないので、どうしてもトライに行っちゃうかなと思うとちょっと残念すぎるので、全体を捉えた、子育てを含めた教育に携わって欲しいなと思います。

○萩原部会長 ありがとうございます。

○中島委員 すみません。最後に1個だけ。

○萩原部会長 中島委員、お願いいたします。

○中島委員 すみません。ちょっとお聞きしたいのは、不登校に関わっているのが、区、市、学校、教育委員会、それと保健所というんですかね。というふうに分けられると思うんですけども、硬い言い方したら、法的には区はどのようなことが出来るんですかね。

先ほど、市からの公開データは無い、教育委員会とまた立場が違うというお話だったんで。区としてできることは何なのかなと思ひまして。ちょっとお聞きしたくてというか、どこを目ざされているのか。以上です。

○丹葉子育て教育担当課長 今の中島委員の質問については、基本的には教育委員会がやはり主になります。ただ、大阪市は委員会だけでやるんじゃなくて、もっと地域、身近なところで色々やっていかないといけないということで、分権型教育行政を推進しており、区長のほうに色々な学校教育にかかる権限であるとか事業予算とかも、今どんどん移ってきているというか、移行の過渡期になっています。

その中で、それをどう活用して、どういうふうな関わりを持っていくのかは、我々がこれから考えていく、我々の仕事ですので、より効果的な方法を考えていきたい。その中でこういったご議論をしていただいている。まさに今日いただいた意見でも、単にトライに委託してお任せという形ではなく、そういった専門のNPOさんの経験もトライの経験も生かして、その中で東野委員がおっしゃられた、教員の方の研修、

これもこの不登校をテーマにして実施したことがあります。それは非常に好評だったので、それを継続していくのが良いのか、それよりも、その先生方も経験が、この件に対してそんなに経験が豊富にあるわけではないので、そういった先生たちが、そういうことに出くわした時にどういう接し方を子どもにすればいいのかっていうような、常に相談できるようなシステムを構築するのも1つの手じゃないかと、色々と今考えておりました、その中で区の方が限られた予算ですけれども、どういう形で関わられるのかということの答えを出していきたいなと思っております。

また色々とこういう場を通してご意見をいただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○萩原部会長 はい。ありがとうございます。

では引き続き、3つ目の項目の区役所としての総括をお願いしてもよろしいですか。

○丹葉子育て教育担当課長 居場所づくり、ふらっと教室はまさに学習支援という形では全面に出ていますけれども、来て、パソコンでプログラミングをやるなど、色々な幅を持った形でやっています。まずそこで対応できた子どもが、そこに落ち着ける環境というのが1つの目的ですので、常に勉強、勉強というものが目的ではないので、そのバリエーションをどう増やしていくのかということだと思います。色々な形で本当に模索中ですので、こんなところでこんなんやってみたいだよ、何か評判良かったよということがあれば、また教えていただければと思っております。

本当に28年度から区の予算を使ってこのような形で始めた事業で、本当に難しいんです。今、委員からあったように、昼夜逆転から始まって、だんだん学校に行かなくなって、そんな子どもばかりかということ、自分の好きな科目の時だけは元気にやって来る。でもその後はまた来ない。3日に1回だけ来る。それは非常に、校長先生とお話しても、不登校と一括りに行っても、色んな不登校があった、我々の世代には無かったような子どものパターンが出てきてて、とにかく学校も困惑しているようなお話を聞きますので、それも含めてどういう形で教員、学校の先生への支援、当然、

当事者の子どもと保護者への支援。どういう形で区として関わっていけるのかというのは、またこういう場を通して積み上げていきたいなと思っております。よろしくお願いいたします。

○萩原部会長 はい、ありがとうございます。では最後に、その他のテーマということで、冒頭に説明させていただいたと思います。その他のテーマということで、これだけは言うておかないと、というご意見はございませんでしょうか。

では、東野委員、よろしくお願いいたします。

○東野委員 これだけは言うておきたい、あるいは次回の会議には是非とも情報提供して欲しいという時は、この紙に書いてあげたら、次までに事務局の方が用意してくれますので、皆さん言い足りない部分はこの紙にしっかり書いた方が良いと思います。

次回に情報が提供されて、より議論が煮詰まると思います。以上です。

○萩原部会長 他にございませんか。ただいまのご発言について。はい、では中井委員、よろしくお願いいたします。

○中井委員 すみません。保育事業なんですけど、一応保育所、かなり問題になって、立ててやってきまして、待機児童もほとんど無くなったという状況なんですけど、今ですね、お母さんも働く時代になっておりまして、パートではなくて正社員とかそういう感じで、残業されるとかも結構多くなっておられます。

そこら辺のケアを今後どうしていくのかと、今、保育所はだいたい6時頃で終わりますよね。残業してたら絶対間に合いませんよね。

女性がこうやって働いていくためには、やっぱりお母さんが安心して残業、残業を推進するわけじゃないですけど、どうしても残業せなあかん日が出てくると思うんですよね。そういうのを今後、どういうふうにケアしていくかということ、また考えていただきたいということがあります。

○萩原部会長 はい。では小林委員、お願いします。

○小林委員 一番最初に言おうとした意見ですけど、城東区の一時的保育事業のお金が

かなり、31年度算定のところで、他のところの減り方に比べてかなり減っているかなと。それは事業実績に対して減ってるのかもしれないんですけど、今年なんかは地震とか台風とかがあって、職場に向かう時にもう預かってくれへんから困るって言ったお母さんに道で何人も。今から仕事に行かなあかんっていう声があちらこちらで聞こえながら職場に行ったという経過があって。

だから一時保育は大変大切なことやし、皆利用したいけれども、実際にはすぐに対応できるような使い方になってないからそんなに利用されてないというか、利用できてないっていうような実態があるのかなっていうところです。

○萩原部会長 はい。それでは、最後に区長にまとめていただきたいと存じます。よろしくをお願いします。

○松本区長 ちょっと待ってください。今の一時保育のことで。

○萩原部会長 答弁を。

○丹葉子育て教育担当課長 まず、一時保育の予算ですね。1つは保育施設がやっている一時保育はニーズがあるんであまり変わってないんですけども、区役所の方で色んなイベントとか申請手続きを集中してやる時に、子どもを連れて来られた時にどこか別のところで預かることができる形があったらいいなということで予算を確保したんですけども、なかなかちょっとそちらの方もご利用が無いというか、たまたま用意していた会議室が急遽選挙とかそういうことで使えなくて、事業そのものが立ち行かなかったということで、そのまま不用額になってしまってる部分があります。それと、保育施設の方でやってる一時保育事業、一時預かり事業、これはニーズがあるんですけども、皆さんご承知のように保育士の確保が非常に難しい状況になっている中で、本体、普通の保育所の運営の方にどうしても優先的に保育士がいきますので、一時預かりの方の保育士というところまでなかなか確保ができなくて、事業規模が小さくなって、利用実績が落ちてきているっていう状況もあります。

保育事業、一時預かりをやるということは、最低2人の保育士をその事業に充てな

いといけませんので、その2人をそこに充てるんだったら、クラス保育の保育士の方に充てたり、障がい児加配の方が充てたりというような、他の選択肢の方に押されて、ちょっと事業をやめたいんですというお声も事業者から上がっているようなぐらい、今、人材の確保が難しいというような背景であるということでご理解いただければと思います。

あと、保育所が終わった後のフォローということで、たしかに、一般的には保育所はだいたい11時間です。延長保育をやっているところで12時間ですから、7時半から7時半か、頑張ってやっていただいているところでも8時ぐらい。この近くはもっと遅くまでやってる所もありますけれども、そこばかりに集中するわけにもいけませんし、そういう形での延長保育、そういうふうな取り組みが、また実施したいけれども事業の採算が合わないってというような考え方もありますので、そういったところも国の方の子ども子育て支援制度の中での体系のあり方もそういうものも色々とまた、当然、大阪市だけの問題ではないと思いますので、国の事業制度、設計からまた出てくるかと思えますけれども、そういうところを注視しつつ、区でできるものがあればまたそれはそれで取り入れていきたいなと思えます。

○萩原部会長 はい。それでは最後に、区長にまとめていただきたいと存じます。

○松本区長 皆さんの熱心なご議論、並びにご意見ありがとうございました。

3-1-1のところで、最初に子育てフェスティバルの来場者アンケートが無いといことが話題になりました。この事業のみならず、他の事業でも同じようなご指摘をちょうだいしてますけれども、やはり事業効果の検証といえますか、東野委員の方から、いわゆる税の使い方についても検証するべきだというお話もいただきましたので、それにつきましては、やっぱり我々きちんと意識した上で事業をしていかなければならないというふうに思っております。

区民全体の認知度も上げていかないといけませんけれども、ご指摘いただきましたとおり、事業内容のより良い改善と言いますか、それに向けて実際に参加した方の

お声も拾っていく必要があるのかなと思ったりもしております。

あと、不登校の話も色々と意見をいただきました。学校の役割、家庭の役割、また、区の役割、教育委員会の役割。それで言えば、こども相談センター等ですね、教育と福祉との役割、それぞれやっぱりあると思うんですけども、小林委員の方からありましたように、何もかも学校に求めるというのも、やっぱり現実的には無理がございます。ただ、学校の方も、私はこの秋から冬にかけて、小学校16校、中学校6校の計22校ですね、校長先生方と懇談をさせていただきましたけれども、学校の方もかなりこの不登校児には取り組んでいただいております。

ただ、学校だけでは解決しない。それに、どなたでしたかお名前は忘れてしまったけれども、不登校といいましても、昔みたいに引きこもって、ずっと部屋から出てこないという、いわゆる旧来のイメージのものもあれば、先ほど丹葉の方から申しあげましたけど、自分の好きな時には出てくるけれども、それが終わったら「さいなら」と言って帰ってしまうというふうな子が出てきたわけですね。

あるいは、最近は減ってきてるんですけども、いわゆる遊び非行型というふうな形で、特に最近は、先ほどSNSの話も出ましたけど、他校の子と繋がったり、そういった色々と非行に走るというケースがあったりとか、色んな話を学校の校長先生からお聞かせをいただいております。

そういう意味では非常にライフスタイルも、ご両親の働き方でありますとかも色々なパターンが出てきてる中で、それぞれに対してどういう効果的なサポートができるのかということにつきまして、先ほどの検証ではないですけども、我々は事業としてやらせていただいている以上、そのところはきっちりと効果を検証させていただいて、少しでも子育て支援あるいは教育事業が少しでも良くなりますよう、区としても様々な取り組みを進めていきたいですし、学校を支えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は皆様の大変貴重なご意見をちょうだいいたしまして、誠にありがとうございます

いました。

○萩原部会長 もう時間になりましたので、それでは、城東区区政会議こども・教育部会を閉会したいと存じます。委員の皆様ありがとうございました。

それでは、最後に事務局、よろしくお願いいたします。

○縣総務課長 萩原部会長、内山副部会長、委員の皆様ありがとうございました。

最後に事務連絡ですが、これまでの会議でいただきましたご意見や、本日いただきましたご意見、これらを踏まえまして、今後、予算担当の部局等とも調整をさせていただきますと思います。

その上で、次回の本会の時に、31年度の城東区運営方針案や予算案として皆さんにお示しさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それから、もう一つお願いです。本日はお配りしておりませんが、区政会議の運営についてのアンケートを後日送らせていただきたいと思いますと思っております。

こちらは、城東区だけのアンケートではなくて、大阪市24区統一で実施するアンケートになっております。委員の皆さんに必ず提出していただくようにと言われておりますので、締め切り等はまたご案内させていただきますが、提出についてよろしくお願いいたします。

それから、先ほどの東野委員からもございました、こちらの「ご意見・ご質問シート」、是非とも積極的に活用いただいて、ご意見やご質問、また、本日言い足りなかった、聞き足りなかったということがありましたら、後日でも結構ですので、ファックス、メール、送付、直接持ってきていただいても結構ですので、よろしくお願いいたします。

それでは、これで区政会議こども・教育部会は終了させていただきます。皆様ありがとうございました。

